

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170700175
法人名	医療法人 天心会 志田病院
事業所名	グループホーム さくら荘
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191番地2 (電 話) 0954-63-1550

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人、	非常勤2人、 常勤換算10.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての1階～2階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費		円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低 70 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 天心堂 志田病院	寺尾歯科医院
---------	---------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さくら荘は、古い時代の名残のある商店が、今も残っている街並みにある。設置母体である病院の敷地の中に、系列の介護施設と共にある。職員は研修にも熱心で、同業者との交流や、市の研究会での研究発表など、積極的な活動を行っており、「笑顔」を合言葉に、明るく楽しく働いている。入居者は、地域の祭りや、行事にも、積極的に参加し、地域の人達との交流を深めている。なかでも、地域連携年間計画を作成し、毎月2～3回を目標に、地域の方々とのふれあい交流を大切にし、地域で生活している実感を大切にしている。地域の方々に防災訓練を呼びかけ、一緒に訓練することにより、地域の協力を得、意見を聞き、改善に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題としての指摘は無かったものの、話しのなかで、市町村との連携をもっととるようにとの助言を受けて、運営推進会議で話し合い、その結果として、市からの講師を迎えての勉強会や、講習会への参加、市が取り組みようとしている学習療法への協力等、市との関係もかなり進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	始業時に、事業所理念の唱和とともに、自己評価、外部評価の項目を毎日5項目ずつ唱和し、その理解に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回会議を開き、プロジェクターを使い、解りやすい説明で報告している。市の保険健康課と、包括支援センターからの参加は、できるだけ多くの人にわかっていただけるように、毎回入れ替わってもらう等、行政に対するアピールも研究している。地域の区長や、近所の協力者も入れて、外部評価への取り組みや、防災訓練の報告等、地域との交流にも役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、話し合いの場を設けたり、家族に対するアンケートの実施や、意見箱を玄関に設置したりしている。また、懸案となっていた「家族会」を立ち上げ、家族との交流の機会を増やし、意見、不満、苦情を言える場を広げ、家族との関わりにも努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域連携年間計画を作成し、地域の行事参加やふれあい祭り、ゴミ拾い等のボランティア活動、同業施設との相互訪問など、年間を通じて地域との関連をもつ機会を作っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を込めた「利用者様とのふれあいを大切に、生きる喜びを共有し、常に笑顔で、安らぎのある生活が送れるよう支援します。」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務室に理念を掲げ、毎日、始業時に唱和を行い、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流をより具体的にするため、地域連携年間計画を作成し、毎月、2回以上を目標に、地域の方々との交流を図っている。	○	現在の取り組みが定着し、今後は地域住民の一員として事業所と地域の方々が日常的に関わりを持つような双方向の更なる関係が築かれる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全ての職員に徹底するため、毎日始業時に、評価の内容項目を読み上げたり、改善案を出し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、地区の代表、日ごろ連携して話し合いを持っている母体法人との各種合同委員会からの出席があり、これまでの評価結果や、現在、取り組んでいる問題等を話し合い、意見を聞いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員に、勉強会の講師を頼んだり、市企画の研修会へも積極的に参加し、研究成果発表をしたりしている。市が検討している「学習療法」についてのノウハウを提供するなど、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「ホーム便り」を発行したり、家族の来訪時にはその都度話しをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、アンケートによる要望の調査、各種行事への参加要請などをして、意見、不満、苦情を表せる機会を作っている。また、「家族会」を立ち上げ、家族との交流の場を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が、なじみの職員の交代により、受けるダメージが大きいことを理解し、できるだけ異動を少なくしている。同じ敷地の母体法人への異動があった場合は、時々、顔を見せるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体の病院や、同系の小規模多機能施設、デイサービス施設との合同研修を行っている。外部の研修にも積極的に参加し、市の研修会では研究成果発表などを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月ごとに、同業の事業者との会合をもち、互いにアドバイスをし合ったり、意見交換をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、家に出向いての説明、事業所見学、体験入居、家族への報告を繰り返しながら、ホームでの安定した生活が送れるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一緒に生活するもの同士としての立場と共に、人生の先輩として、生活文化を教えてもらう立場であることを考えの中心に据え、共に支えあう生活を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からや、家族から、一人ひとりの生活歴や思い出を聞くなど、一対一の対話を重視することにより、本人の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、本人や家族の意向を聞き、母体医療機関の医師、ケアワーカー、各種療法士などの意見を参考にして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎の定期見直しをしている。変化があった場合はその都度、検討会を行い、母体医療機関の意見を聞きながら、現状に即した計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への付き添いや、図書館やサークルへの送迎、買い物や、近隣のファミリーレストランでの喫茶などへの同行など、その時々要望に応じての支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所が病院との同敷地内にあることで家族への安心にもつながっている。ほとんどの入居者が母体病院をかかりつけ医としている。眼科、歯科、皮膚科などは、それぞれのかかりつけ医への通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、ターミナルケアに関しての指針を作成し、状況に応じた対応を、その都度家族と話し合い、確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービス向上委員会を設け、プライバシーを損ねる声かけが無いよう、話し合いを続けている。外部からの入居者に関する問い合わせの電話もあるが、この場合も特に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地域のお祭りに参加するための演目の練習や、学習療法等、事業所が用意した日課などでも強制は無い。テレビを見たり、外を眺めるためのソファが用意されていたり、昼寝もできる畳の間もあり、それぞれの時間を思い思いの過ごし方ができるよう配慮されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日から土曜日までの献立は母体の病院の栄養士が系列のデイサービス、小規模多機能、グループホーム、病院などそれぞれの分を作っており、職員も入居者と同じものを食べ、個人の能力にあった支援で食事を楽しんでいる。日曜日は本人の希望を聞いて本人の好きなものを食べてもらっている。	○	一人ひとりの好みや力を活かすためにも、暮らしの場面として買物、調理、食事、後片付けなど一連の流れが利用者とともに行われるような取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、できるだけ、本人の入りたい時に入れるようにしている。希望者は夜間でも、毎日でも入浴を楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴を知り、その人の好きなこと、得意なことをして過ごしてもらうことを支援している。料理の好きな人、裁縫が得意な人、園芸が好きな人は畑で作物づくりができる。畑は車椅子でも作業ができるよう工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や、買い物はもちろんのこと、弁当持参での花見やコスモス見物、近所のファミリーレストランでの食事会、隣接市の大型スーパーへの買い物ツアー、水汲みドライブなど、できるだけの外出を取り入れた支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間のみ施錠しており、昼間は自由に出入りできる。調理場から玄関の見通しも良く、調理作業しながらの見守りもできる設えになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人達の参加を得ての防災訓練を、昼間想定と夜間想定で年2回実施している。施設には2階から直接外部へ避難することができる階段が無いので避難階段の設置を検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が作成され、栄養のバランスをとっている。水分摂取量については天然水を汲んできて、起床後と就寝前とに摂取量の調整を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光がよく、建物内全体が明るく、気持ちいい造りになっている。玄関の前には季節の花が植えられている。玄関のカウンターの高さも、反対側の手すりと同じ高さにできており、伝い歩きに配慮されている。ソファが外向きに設置されており、庭先を眺めながらくつろげるようになっている。畳のスペースもあり、疲れたら横になってくつろげるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は大きな窓で明るいつくりになっている。タンスやテレビなど、使い慣れた家具が持ち込まれ、なかには仏壇を持ち込み、毎朝、水や仏飯などを供えている人もいる。ぬいぐるみや折り紙なども飾られ生活感に満ちている。		